

災害を忘れない

6月は土砂災害防止月間

9.20豪雨災害で川ようになった道路(土岐津町本郷)

近年、異常な集中豪雨が全国で相次ぎ、大きな被害が出ています。私たちの暮らす土岐市も、過去に水害を経験しました。間もなく土砂災害の起こりやすい季節を迎えます。いざというときに備えるため、過去の水害を忘れず、必要な情報入手する方法を知っておくことが大切です。

■問い合わせ 総務課(内線224)または監理用地課(内線301)

9・20の記憶

平成元年9月19日から20日にかけて東濃地方一円を襲った豪雨は、土岐市にも大きなつめ跡を残しました。泉町久尻と土岐津町の一部地区では市街地に水が溢れ出し、市内で460世帯あまりが、床上や床下浸水の被害を受けました。この水害で泉町連合区委会長の野達夫さんのお宅も床上浸水の被害を受けました。大野さんは「あの水害は忘れられない。はっきり覚えてい」と当時を振り返ります。

あの夜、大野さんは強く降る雨音に不安を感じながら休んでいました。深夜、浸水に気が付いた近所の方に「寝とったらアカンぞ」と声を掛けられ、外を見ると玄関から水が入り始めていました。大野さんのお宅は、以前にも浸水の被害を受けたことがありましたが、9・20豪雨災害の時は、側溝の水が溢れたと思ったら、どんどん水が上がってきたといいます。浸水に備え、家族で畳や家財を上げましたが、水の浸入は止むことなく、畳をひっくり返すほどの勢いだったそうです。

「30分ほどで水は引き始めましたが、近所では、胸元まで水に漬かりながら夜を明かした方があったと聞きました。この地域の方は、全員があの水害を経験したので、きずなが強くなったと思います」

災害を無くすことはできません。しかし、一人一人が、地域が、過去の災害を忘れずに備えることで、災害の被害を少なくすることはできるのではないのでしょうか。

知る

災害への備え

土岐市は地域の約7割を丘陵地が占め、市の南部は険しい山地を持つ一方、市街地の広がる北部には、土岐川やその支流である肥田川や妻木川が流れています。私たちの生活に潤いを与えてくれる緑の山と穏やかな川ですが、いつ土砂災害や河川のはんらんといった自然災害が発生するかわかりません。

このため、いざというときのために、日ごろから備えておくことが大切です。

土砂災害を知る

山間部では大雨が続くと土砂災害の危険性が高まります。土砂災害には、谷や斜面にたまった土などが、雨水と一緒に一気に流れ出てくる

『土石流』、急な斜面が急激に崩れる『がけ崩れ』、緩やかな斜面が地下水の影響などでゆっくりと動き出す『地すべり』の3つがあります。がけ地や川のそばなどで土砂災害の前兆現象に気が付いたときは、すぐに避難してください。

避難場所を知る

災害が発生した際に速やかに避難できるように、最寄りの避難場所を確認しておきましょう。避難場所は、市ホームページや市洪水ハザードマップなどで確認ができます。

洪水ハザードマップには、土岐川・妻木川・肥田川が大雨ではならんした場合の浸水想定区域を基に、土砂災害危険箇所や避難場所、避難の仕方や日ごろの備えなどの情報が書かれており、平成20年4月に全戸配布しました。防災意識を高めるため、今一度ご家族で確認してみましよう。

岐阜県のホームページ「川の防災情報」、土砂災害警戒情報ポータル

県のホームページ「川の防災情報」では、川の水位の情報、河川の静止画像などをリアルタイムで発信しています。また「土砂災害警戒情報ポータル」では、大雨による土砂災害発生危険度が高まったときに発表される、土砂災害警戒情報の危険度情報や雨量情報を確認することができます。

3つの土砂災害と前兆現象

土石流

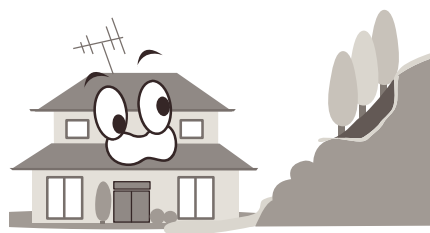
- 山鳴りがする。
- 雨が降り続けているのに川の水位が下がる。
- 急に川の水が濁ったり、流木が混ざったりする。

がけ崩れ

- がけからの水が濁る。
- がけに亀裂が入ったり小石が落ちたりしてくる。
- がけから音がする。

地すべり

- 地面にひび割れができる。
- 井戸や沢の水などが濁る。
- がけや斜面から水が吹き出す。



メールでお知らせ



QRコード

防災行政無線で放送した情報をメールで受信できます。利用方法は、市ホームページのトップページ「メールでお知らせ」から、パソコンまたは携帯電話のメールアドレスを登録後、ご希望の配信設定を行ってください。※受信料は利用者の負担になります。

